

# 養育者の幼少期の被虐待経験が子どもの養育 に及ぼす影響

## — 児童養護施設経験者のインタビュー調査から —

坪倉 浩美

### 1. 研究目的

児童虐待の現状は深刻化するとともに、今なお増加し続けている。筆者は、助産師として母子保健に係る中で、児童虐待の潜在的リスクの予防支援に関心を寄せてきた。かつてわが子への虐待で出会った母親は、自らも実親からの被虐待経験者であったことから、児童虐待は子育て困難な母親自身の病理をもとに、世代間連鎖していく可能性が高いことを意識してきた。しかし、子どもと母親を追い詰めるだけでは虐待の解決には向かわない。

厚生労働省<sup>1)</sup> の子ども虐待による死亡事例等検証結果等の報告によると、子どもへの虐待者は実母が 5 割を占め、被虐待者は 4 割が就学前の乳幼児であるとしている。これら状況をもとに、本研究では、虐待等の理由で児童養護施設入所を経験しながらも、退所後、自立して子どもの養育を行っている母親を対象として、インタビューを実施し、子育ての実態を調査する。さらに、その内容を分析することによって、幼児期の逆境体験による子育てへの影響の有無と、母親のストレスの視点から、どのような支援が効果を発揮しているのかを明らかにする。

### 2. 調査対象者

#### 1) 対象者

- ①実親からの虐待(身体的虐待・精神的虐待・ネグレクト・性的虐待)等の理由による児童養護施設入所の経験者
- ②乳幼児(6歳未満の子ども)の養育を行っている20~30代の母親
- ③インタビュー調査が可能な方

#### 2) 対象者の抽出

児童養護施設入所の期間に担当した児童指導員の方へ、研究の主旨と該当内容を説明し、現

在もアフターケアとしてかかわりを継続されている中で、インタビュー調査が可能な該当者の推薦を得た。

### 3) 倫理的配慮

本研究は、立命館大学における人を対象とする研究倫理審査委員会に申請し承認を得て実施した。(2021年3月30日倫理審査承認【衣笠一人—2020—52】)

### 3. 分析方法

幼少期の逆境体験を経て、母として子育ての困難さを経験していく過程を理解する質的方法としてTEA(複線径路等至性アプローチ;安田・サトウ,2018 a)<sup>2)</sup>を選択した。TEAの中心にある複線径路等至性モデリング(Trajectory Equifinality Modeling;以下TEM)とは、径路選択に焦点を当て、人の発達や人生径路の多様性・複線性をプロセスとして捉え描き出すための方法論である。

TEM図の作成には、一人の人と最低3回面接を繰り返す時にTEM図を用いることでお互いの理解が深まるとともに、過不足を調整し真正性を担保していく。一人3回会うという前提で1/4/9(人)の法則で対象人数を設定する。本研究では、調査協力が得られた2事例を対象として、類型化よりも詳細な把握を目的とし、「TEMの1法則」に準拠し分析を行うこととした。

初回のインタビューで語られた内容から、経験の意味のまとめりに切片化し、分析における最小単位とした。そして、語りから得られた対象者の感情や認識、行為の選択の経験を時間軸に沿って並べた。それをもとにTEM図を作成し、2回目から4回目は、作成したTEM図を確認しながらZOOMにて30分間の聞き取りを行った。作成したTEM図は調査協力者それぞれに確認してもらい、加筆・修正を行った。

### 4. 結果・考察

二つの事例の内容から、共通点として二点が挙がる。一点は、リマインダーを抱えることで、自らの逆境体験の再演となる可能性を持ちながらも、「予期せぬ妊娠」の分岐点で自ら母になる選択を行ったことである。2点目は、子育てを通し不安や苦悩と戦い中から、A氏は自身の過去を子どもに投影しながら不足感を補う径路を辿り、また、B氏は母親としての不安を人に支援を求める径路を辿って、それぞれの「安心」の等至点にたどり着いていることであった。

得られた要点として、以下の3点が示唆された。

- ①母子又は家族を核にして、途絶えないかかわりとして重層的な支援の形が必要である。
- ②専門職(助産師)のサポートとして、母親の気持ちに沿った共感的対応を図ることは、母親の自尊心を高めることになる。
- ③自身が母親であることに関する感情の質には、実母との関係をどのように受けとめているかが影響している。

今後もデータを蓄積し研究を進めていくことで、TEM図から等至点を辿る径路に生じる多様性を得

られるものとする。さらに複数人のデータがあれば、経験を抽象化する際に気付きや抽象化のアイデアを得ることができる。TEM 図の利用をすすめながら、さらに養育者の幼少期の被虐待経験が、子どもの養育に及ぼす影響について深めていきたい。

#### 引用文献

- 1) 厚生労働省:子ども虐待による死亡事例等検証結果等について(第 16 次報告)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000190801\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000190801_00001.html)  
(2020.10.9 閲覧)
- 2) 安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ編(2018a), TEA 理論編 複線経路等  
至点アプローチの基礎を学ぶ, 新曜社, 2018, P4